



丁酉年
〜
子

辰

新富書



5
1833



門八五
卷

頭陀袋下

頭陀袋下巻詠諧五

會釋

三三三

頭陀のり字

法所

桐翁

撤士

木の葉落しつゝ見ゆる中

川史

牛士カタ多し

脩中
露堂

健多し好うと駕籠に元を

翁

あ(産)山の先方ありんか

之ヶ方の

丈

鳴らうより一に鳴らすまの

裏

堂

堂

堂

分

種を練りしり

歩むこころ

翁

あやうに死すはとふ女は身

丈

すしけり小風は紅く霞の

私語

堂

川へあそぶさうさう井の

美華

翁

只礎しり縮し津あま

さよらうと

丈

視ゆ通るは心しとるれり

堂

黒くは舞を去塵しり

けりやま

翁

菊吸あけり菊をあけけり

丈

川へ都す花を華をりりあそび

堂

世乃中し若き過る電

翁

あやうに

あやうに

丈

まはし見負の雲の氏文

堂

蝶鳥の故をゆき筆道者

翁

まはし津はくは中とわ

丈

うおそそそ夜をりし

定津の

堂

風おそわは襟をり水是

翁

と川休軍の〜の夕歌の 夫

ふれりり〜のかき書の 夫

誰のふらの〜の代の 翁

冬よ〜の紙のけの 丈

色のや〜の灯の〜の有の 翁

あふ〜の野の〜の密の談の 翁

〜の九の〜の水の 丈

〜のセの〜の針のとの和のよの 翁

名

糸の〜の別の〜の音の所の 翁

〜の紙の〜の歌の 全

病の〜の〜の〜の 丈

雨の中の〜の徒の〜の 全

庭の〜の〜の〜の 全

〜の〜の〜の 全

...

...

新編のりきり 羅成
入り讀しとく白
羅成の人かれ

語

おりのや梅 カニコ 枝ま人た

竹

何のやの梅の梅 之白

白くぬぬ 備中 正真

先交 支

ニツ 白

土橋の 真

高の 支

白

真

支

真

新

新

其備の籠りありありあること
逢人たれどもとてありぬ野山の
くはるすまて

備中
栲負

戸南野々刈草の籠籠

流水の筒とく津寸月歌

津山
唱備

下しとよ杉水石とくせし

竹皮

休心とくつとつとぬきぬき

足次

孫とくく尾とく掃つし馬の蠅

みま

去刑の前流藪とくゆとく

隠独

捨とくし又藪のくくく

鞠
玉水

とくのとくく言地とく

中如

張機とくつ佛の由まふみ

彦

去右とくよけなとく負とく

推柳

夕月とく約武とく程の信服

賜

雨とくとく流風とく

丈

りとく白とく歌とく

誰

弁とくとく雀のふ陳の慕

負

月乃三階の鹿言笑々

丈

牛一子人濃まよふ

鹿

夜成よりを之反とてあ

鳥

ウ
はゆら細流可た名の

鹿

あつ溜りくそいさり

鹿

免ふと夢のむら

鳥

踏津ゆらるる元一乃元

丈

鳥のゆらゆらと家日

鹿

うらとあましゆのま

鳥

ユカク
俗衣味小布の湯気中

丈

裡あゆみの舞うと

鹿

昔ま子候うと食中あて

鳥

かへりてつる月代の底

鹿

あつと花のうら

鹿

雲の影れ思のうら

鳥

舟丈、鏡別

川舟中 鏡字 一 整とるに

三鹿

くろくも 流氷の澄り

川丈

猶み 紫松栂より鳥の轟こは

全

より 吟と歌と 讀とるに

鹿

撥打り 十なり 盤の入り 田舎

全

根より 去つ 守と 提と 友州

丈

先成と 度々も 解雲の 知り

分

陸電の 火れり とも 音 扇

鹿

扇と して 又 入道の あり 世孫

全

見し ぬ 海と 山と 教と

丈

年を せ くら とも の あり

全

色 昆 羅り 大 根

鹿

未解

福山面八句

鳥のうらやまの津の繁

あまの川さか

蓬船

備後福山

系流中ゆきすこ四上町の竹

随風

人うらやまの鶏の音ひんちんちん

旗中

ひよりうらやまの酒

御支

丁どしちひ板より月の掃き

お醒

うらやまの外ハ種の中

廣代

糸あはせハ唯きりくす娘

芦舟

牛ハうらやまの水をうらやま

お松

新子

泉水の井ハ流るる

あまの川

御支

移ハ付ハくしと定ハおま

新子
雲霧

天の川をさしとてさるる

全

備後尋常小学校
昭和二十一年
八月
九月
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

星合マ 家子 備中 露星

下々丸く小町流七ノ丸 作外 槐翁

玉より素り中よりハ銀の取捌 世山 晚翠

朝比多の 枝子 魂ノ素 好山

盆中 多しとと 火之ゆり 伴山 松叟

稚子の隊

くお堵く 怪之枕多 不織

多唯見類 毎 白流 燈籠

躍子 平坂 衣已

山 備中 其流

夜 心真

音 律山 鴛子

素 備中 今市

暮 律山 緑残

素 下 律山 伴孤

卯 福山 芦舟

知 出 了 丈 奴 つ 也

海のたより國は佳つ山あり物ハ
こころ新し可れ海のよハ

八朝マコノハ新し物ハ
推柳 集山

声 集山 雄 集山 三信 集山

作列一言更さ屏あり

住 集山 露堂 集山

行 集山 推柳 集山

四 集山 挂投 集山

病妻 集山 山鹿 集山

續 集山 玉園 集山

弁 集山 吉徳 集山 山

心 集山 鳥 集山

如 集山 葉 集山

是 集山 推柳 集山

名 集山 其 集山

名 集山 貞直 集山

見せう居る所と

歌けハ

名月夕多門よ歌乃友達作州秋夜

名月マ何五何多帆の字船ヒラフク候

名月マ牛一扇一把を貫こはり玉田

名月マ如りハ高孔の字り鴨方至吹

夕多門降ハ何仕候正真

夕（巻）思う夕一儀み夕月飯中青月翁

月鈴叩ハ月遠字律りハ何授伯外如當

月如雨（巻）思う律（巻）權風律山中如

吾の物りハ律權風秋夕日其偏

水如月（巻）律（巻）瘦のワ（巻）姿日冥水

廣（巻）歌（巻）律（巻）月（巻）見（巻）敬中

夕（巻）多（巻）門（巻）律（巻）何（巻）律（巻）律（巻）律山如

名月マ霜（巻）律（巻）何（巻）鳩乃友（巻）全

夕（巻）六（巻）何（巻）夕（巻）律（巻）何（巻）如（巻）全

立（巻）物（巻）ヤ（巻）月（巻）律（巻）何（巻）玉子如（巻）全

便形マ 月百字長傳く

ハ花

全

好 踏流 有 子 公 風 マ 碎 の 確

全

一六好雨

月流三二好續々く休川

高吉

一六好雨

吟針

作外田尔 露路紅

一六好雨

播外海田村 長春

雨云流

備中 一盃

一六好雨

飯前 下律井 山鳥

赤 蜻蛉 朝 風 流 糸 下 の 先

律山 玉水

子川マ

ハニ他羽 一好

声 川 好 妻 六 五 之 纏 築

律山 都就

何 遠 國 好 尾 之 地 ね 細 め

日 三信

朝 弄 マ

作別 桑井 秋 備

好 卜 弄 マ

久世 緑水

啼 好 好 好

律山 好 文

好 好 好

律山 若柳

似平あ

疑 あ の 風 同 な ま 野 分 流 傳 川

笑 列 三 段
依文

天のそよよて

目如木ひひり 種流あうる 鏡 川 芳 山

物のしづ見しぬち 集 山 極 吟

新酒マ 播り 日 暮 凡

一息多し新酒 独醉マ 裸も

作 列 三 段
花伝

閑中石白と云題と撰て

〜 家マ 白 あ く え 集 山 推 柳

崩井マ 下女う 鼻うす 葛 う 集 山 作 列 三 段
身計

あ 集 山 梅 偏

人魂のあ 所 よ 女 高 野 由

道 深 い 下 鴨 追 高 世

何 鳥 也 奈 は 自 那 う 多 れ 萩 の 巻 飯 中 政 接

萩の鹿 集 山 素 灸

〜 よ お 色 死 年 言 れ 鹿 の 声 日 緑 残

唯

唯 独り 女 (下) 川 (律山) 野 (律山) 丈方

あ~~~~ 奴 (律山) 中 (律山) 種 (律山) の (律山) 丸 (律山)

お~~~~ 州 (律山) 業 (律山) 平 (律山) 孤 (律山) の (律山) 丸 (律山)

あ~~~~ 女 (律山) て (律山) 江 (律山) 力 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山)

あ~~~~ 白 (律山) 眼 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 下 (律山) 律 (律山) 孤 (律山)

あ~~~~ 兒 (律山) 奴 (律山) 子 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 伯 (律山) 列 (律山) 全 (律山) 音 (律山) 舌 (律山)

あ~~~~ 奴 (律山) 禮 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 丹 (律山) 水 (律山)

あ~~~~ 音 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 真 (律山) 系 (律山)

あ~~~~ 人 (律山) の (律山) 声 (律山)

あ~~~~ 横 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 中 (律山) 如 (律山)

あ~~~~ 第 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 捨 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 播 (律山) 列 (律山) 全 (律山) 音 (律山) 舌 (律山) 一 (律山) 丸 (律山)

あ~~~~ 片 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 正 (律山) 氏 (律山)

あ~~~~ 花 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 桐 (律山) 花 (律山)

あ~~~~ 野 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 利 (律山) 欠 (律山)

あ~~~~ 自 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 一 (律山) 丸 (律山)

あ~~~~ 鶏 (律山) 頭 (律山) 丸 (律山) の (律山) 声 (律山) 律 (律山) 山 (律山) 是 (律山) 誰 (律山)

律山

律山

左所より衆
ある所なり

池 上の 尾

播州山崎
園地

ワシ 癖 中 縮り 種を 康す

縮州 諸あり 故見しより 厚なり

ちり 線 けり 縮州 水緑

告 丁 場主 種 拾り

是 後 山 寺 花 まるり 夢 夢 端

芭蕉 葉 八 破 地 見所 桐花

蓬 生 北 宿 後 柘 榴 下 描り 玉

只 柳 下 下 地 芳 下 氏

眼 麻 女 三 皮 水 是 丸 鼓 左 郎

後 下 丸 浦 口 あり 河 行 漬

比叡山

い ち 妙 寺 一 遊 寺 小 傍 州

里 下 片 多 道 能 受

園 樂 此 あり 鳩 籠 中 一 日 里 門

274

園楽あり 追津く坂の

律山中如

とくくれて鳥鳴くも 執柄小

久世且流

何れあり世を恨津マ短つ

律山且痛

能平儀 役おし 皇持 節不 日 及独

伯列 近貞

まよふ歌う節 とも泊て笑ふ

伯列 近貞

菅原のゆく重陽

彌くくく 今朝も丹香の

律山 約史

菊(盛)る如の 獲て 独起 紅

伯列 近貞

横をくくく山は是なりつて
了し昔提之そありまかり久れ

酔ふめ(盛)松あり竹の 野菊

律山 山水

見通し ともくそ杖の 野菊

律山 煉瓦

古新垣あり

修羅流 声 孤 大音 律 荻の 巻 獲舎

律山 獲舎

及みあり雨片里あり 玉川

律山 五山

曇り 雨あり 雲あり 月見

律山 花籠

空く 枯天道 廣 片 朝 あり 月

律山 岩女

題詩有

松の色色 津 振る 雨と 又 姫路 布流

りと 白浪 蛙虫 文 玉山

花春 暮る 日 松叟

之を 久 世林

鐘の 照り 得る 枕干 下 律井 伴孤

前ハ 鐘の 案下 俾久 世夜 具

冬第 七

炭竈 マ多 冬を 律 山素 宝

小魚 備 中白 雲

駒大 和子 扇一 神鹿 留主 年級 煉凡

とり 備 中盛 良

とり 津雨 不断 乃雨 備 中盛 良

酒を 碎り ぬれ 能く 時を 流して 流る 備 中盛 良

松

虫品くくと太子まゝ久野小夜時中

鳩シクイのいと日力有里

昨踏よりうはるるし付里人多
以下方より信利娘のまゝ
何しは非を月らおひ日
ひしやうか

付交る平後ハ何素軒

小くは西角産子野産紙野うひ里

麦芽伯列人名言れあ時徳と日出日の日ゆ日く日付日交日

麦芽日産日く日う日ら日羽日つ日ふ日え日ん日ひ日 桐花

年律山産中如く日産日も日み日ら日細日マ日菊日

十月日マ日酒日屋日く日産日あ日ハ日煙日

炸契列三海ノ作文周日ま日マ日火日も日せ日ぬ日く日地日も日

産久世く日く日と日不日産日あ日の日産日

教伯州ノ日中日ハ日信日入日ま日の日産日都

産如史費日子日ハ日ま日の日産日

朝久世前重乾ハ日ま日里日ハ日と日産日あ日て日

ち律山ハ日果日ハ日後日ハ日産日あ日て日 是誰

音し掛マ 紙子法肩の 霜煙 俣山 曙山

世人これ冬にかりし 残し紙の 絶てし字もよきの葉かゝる影しんす

玉次の石鼓 あれりや 霜くく 俣中 故構

倭人の蒼りマ 結み冬れ山 伯州 曉鳥

炭竈の煙ハくくふくふく 日 立波

炭くくくくくく 俣山 鳥子

久ハ 秋野 巴百

ふくくくくくくくくくく

佛檀の房ハ 豆片 大坂 梅寸

長部 秋野 等年

月ありふ 平渡 煉風

風 作州 龍翁

木指 素軒

木指 伯州 如丈

風 備中 矢掛

風 秋野 由

仁里ハ

みく奉納

誰う放すは池の程の
みく

くみ夜のゆき

猿猴の白 おし
うきくれ

ふみのの里とを 津日大風のち
み
みく

雨風り 野ハ一牧の柳ル

佐世山雲鹿り逢 なれり
作列
久世、言の便り みく

ぞぬく みく
みく

雨きき みく
みく

作列 みく
みく

雨ハ みく
みく

みく みく

鐘の色 みく

みく みく

みく みく

みく みく

切

三

舟がうす 抱く 乳 ちて

うよ〜と 冥加入稿の

あれより 便りを来り 伯州へ

元鴨の 星近貞子へ

たし 白のうせりつて 道の者

うれより 川をよみ へりり

少城下 倉をりり

舟よ 出りつて 川に

渥多〜〜〜と 及すうの

お白りし ち里〜 獨よ

山〜〜 柳う 殺て

酒〜〜 舟に 下

津光寺〜 ち 葉寺

いよ〜 鹿 寺 庭

伯州〜 庭 九月 半

〜〜 津里 十月 城

下〜 一里 計 東 清谷

室〜 空マ 雨 ちり

森

三

とれまうの田に里島舟のまじり

いじり〜と〜の葉は 葉の紙は

み〜一里系松崎〜と〜小倉里水と〜は

あれ續〜中〜小倉の目録が

也目付〜成ら〜と〜同列鳥取〜越〜

こお及ハヤ六の地ハ中六の廣と〜と

と〜と〜津大難市〜定〜片〜と〜

ら〜と〜物取た〜と〜道〜と〜と〜

〜と〜俄〜と〜と〜と〜雨を〜と〜と〜

お〜と〜海のおり〜と〜は〜と〜か〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

ら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

磯 良 蛇

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

去市〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

朝水の舟 地を渡る 舟の歌

言如く大國なるは 性まあるとて 在
くは 舟便なるも 舟倉を 歸る

越へて 又 舟倉 舟の止

舟倉の舟 舟中 舟の歌

清谷

舟の歌 舟倉の歌

これより 舟倉の舟 舟の歌 舟の歌
舟の歌 舟の歌 舟の歌

煤拂 白大と 舟の歌 舟の歌
伯列 推葉

舟の歌 舟の歌 舟の歌
平坂 煉瓦

舟の歌 舟の歌

舟の歌 舟の歌 舟の歌
日 素軒

舟の歌 舟の歌 舟の歌
舟の歌 舟の歌 舟の歌

錢別字九

西(り)と(る)通(き)料(め)取(り) 律(り) 推(柳)

右(り)と(る)火(燧)を(動)く(務)後(日) 暎(山)

等(り)と(る)禮(と) 律(り) (る)の(は) 備(中) 至(吹)

と(る)ゆ(ら)よ(空)方(向)を(る)ゆ(ら) 後(歌) 律(り) 盛(良)

竹(り)の(を)踏(つ)き(を)り(馬)れ(上) 律(り) 是(誰)

と(る)掛(へ)龜(の)蜜(柑)を(り) 律(り) 是(誰)

又(り)と(る)言(の)出(便)り(め)く
等(り)と(る)菴(ま)と(る)あり(め)く

合(め)り(菴)苗(植)る(菴)も(り) 律(り) 沅(湘)

冬(り)と(る)日(道)あり(め)く(あり)て
は(時)錢(別)り(め)く(あり)

山(り) 律(り) 律(り) 別(道) 律(り) 作(角)

出(君)の(り)丈(笠)を(り)編(せ)枝(よ)つ(る) 律(り) 我(り)
罪(り)と(る)の(同)誰(や) 律(り) 我(り)
友(り)と(る) 律(り) 同(り) 律(り)

孫(り)と(る)清(水) 律(り) 誰(り) 律(り) 祇(中)

道(り)と(る) 律(り) 律(り) 律(り) 中(如)

繩の野と物屋、お津ゆり、坊主、文玉

若よなる瓢箪早よ酒と入こし
いややりのみだり

うけ 禮の 持給へ 来已

徳和の川系よき所 藤枝芝居有
平福よりきたり此所 遠りたる
字より一より二日及もねて別の御
又土より同くもねて此所 捕んと
下れはけは出でてあひひる約てよ
くといひは大笑してゆり有る程

絃子よき、作主 野良、青月翁

竹あり、空より、落流、玉英

道つゝの糸十終

時〜もをね〜獲とせに、姫路櫻谷寺

年入より十糸針ある物とあり

念佛、此道切介の、結え、年より、糸の

多勤

佛、唱小、頃、頃、頃、頃

糸の、きりの、糸

杖、紙子、舞、舞、那、老を、原、糸

鞠

糸水之升下りの高き

あゝ〜 雲腰脚平之あり折り節所

儀所ありあゝ主り心休まりてあゝ

しあゝ〜 又観音へ詣りてあゝ見えて

父より女の出りてあゝ

出女儀所を柱杖あり付主

尾の道へぬり便りあゝ識り月を

空儀ありあゝあゝあゝ

いゝとあゝあゝあゝあゝ

尾の道中鞠の形事又ハ重昆

張會式ありあゝあゝあゝあゝ

あゝ所儀誂諧の長いあゝあゝ

あゝあゝ世を感あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

屏の裏に書かれたり
濁る物も書きつけて見直し
し公算の傍の屏に
くもたたりとくも

下関の氏本孤 疾り 津菴

子丸一國子中子御より道とる

ジマクヤと森の 小社の 響ありん

子中子御とていふて

鶏の 声 俄に 室の 志ありん

出州より佐中へはるる 幸なる所

しるる 物にて 幼きより 心ありん

暁^{キレ}展^レ片^マ 水^カ切^リり 鳥^ノ珠^ト 津山 隠独

細^ク互^ニけ^テ 縁^を 磨^リる 向^方あり 青翁

行^ハ 稀^ニ 子^ノ 所^ニ 丈^ノ 法師^ト

何^レ 雨^ノ 冬^ノ 衣^ハ 衣^ハ 衣^ハ 衣也 我野 羅峯

舟^ノ 丈^ノ 雙^ノ 舟^ノ 終^テ

黒^ク 塙^を あり 舟^ノ 丈^ノ 雙^ノ 舟^ノ 日 等年

出^ル 舟^ノ 丈^ノ 雙^ノ 舟^ノ 終^テ 我 隣 全

行^ハ 燈^ノ 舟^ノ 丈^ノ 雙^ノ 舟^ノ 小夜子鳥 福山 蓬船

何事日如文

免日物日隆日垣日其角

これ人の居るを

津日山日京日推柳日隆翁日

神日多日葉日程日推柳日

は日程日人日程日礼雅日

は日程日小指日礼日廣代日

端日程日礼日小指日曉島日

降日程日正真日

言日程日竹日文日

原日中日マ日ヤ日久世日車石日

言日乃日山日庵日の日烟日ハ日焼日の日伯列日如當日

言日者日山日一日吉日一日馬日日日若水日

言日出日一日言日西日の日程日大根日津山日若柳日

近日俳諧の行

言日能日廣日程日推柳日利久日

青風也吹くをこの先
世山 貞直

吾れも此の歌の
世山 明彦

小わがしとて宮に蓄れ候言吹く
伯州 都丹

ひまをとり小服も
日 如當

かんといふは先を
日 元洲

わがしとて冬に銀を
作州 繩翁

いぬきり
世山 具備

一（清うらを吹斬り氷柱）
日 斎友

銀のしる家り斬り氷柱
日 隆平

いひし 月程 今 朝 氷柱
探流

あつたは火熾り候り仰き
世山 汀山

半あり香を油ゆり起す仰き
世山 昂章

青風也吹くをこの先
世山 利久妻

牛に尾振り候り
作州 不識

鈴の籠出さるる
世山 正真

傘のしる
世山 青猪

月薫了仲張々々
二柱
利久

三三三神八百年忌

八重梅マ 神後地可里法
種
獲翁

除五れ豆のよ安ヤちの酒
丹水

徳守云々作州
神
此且り休万歳と
の者句して筆試

甘房後流々酒
正真

又し
月か
神の徳

申酒マ可恰國
神
去
全

身禮マそり子を抱く丸は
鳥子

月か
田植奇
伯外
栢邑

葉公屋昔月
植
沅湘

白雨
百姓
備中
具流

社
竹
社

朝霧のしづかき 餅 谷小焼火戸

情谷の物之しづかき

毎食のしづかき 餅

度はめしづかき 餅

くしづかき 餅

きしづかき 餅

きしづかき 餅

解しづかき 餅

中しづかき 餅

片しづかき 餅

みしづかき 餅

にしづかき 餅

しづかき 餅

しづかき 餅

しづかき 餅

しづかき 餅

しづかき 餅

しづかき 餅

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹

竹史者風雅乞士也頭陀者

行脚空囊也乞山乞水拾花

撮月出入無用用之不盡無

尺囊中誰識誰得識者識

之得者得之矣且史淡空之中

必有物清用則得其得之者

貴季為珠玉捨季為尾石

珠石各室中_レ之者_ニ而_レ豈始_{ヨリ}揣_テ
於_レ世_レ間_レ取捨_ヲ乎_レ存_レ之_レ名_ニ此_レ書_ニ
太_ク好_シ也_レ斤_ニ言_フ以_テ包_テ括_ス萬_ノ物_ヲ者_ハ詠_テ
也_レ一_ニ契_テ以_テ舒_テ矣_ニ百_ノ情_ヲ者_ハ鳴_テ所_レ
這_レ箇_ノ頭_ニ枕_カ袋_カ欵_カ

首

寶永元龍集

甲申冬十月

上浣

播及平福

藤溪士跋



又下

